

三財川の研究

おがた いち 株式会社海洋計画
緒方 一

1. はじめに

宮崎平は標高百数十mから数十mの台地で形成されている。原（はる）と呼ばれる台地である。新田原、長園原、仲間原などである。堆積地質は様々であり、その形成過程には興味深いものがある。宮崎平野を地形図で概観すれば図-1 の通りである。これらの地形を眺めているうちに奇妙な円形の地形を発見した。図-2 参照。これについて少し考察を試みる。

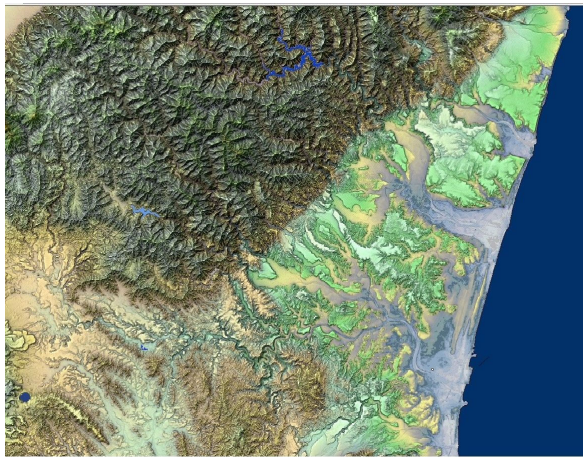


図 1 宮崎平野

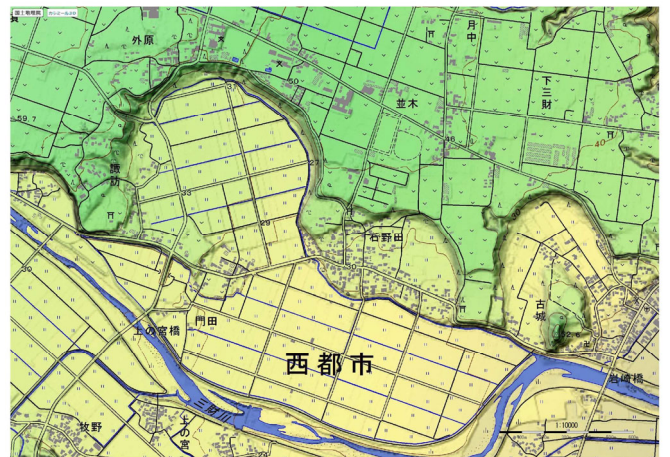


図 2 奇妙な地形

2. 河川の蛇行

氾濫原上を河川が流れる場合蛇行することが知られている。この現象はその河川の環境に大きく影響されると考えている。寺田寅彦は自然界の縞模様のなかで河流の蛇行経路（メアンダー）について記述している。また、アルベルト・アインシュタインまでが一説をだしていたようであると述べている。河川はその流域ごとに個性がある。河川工学は流域の個性に着目する必要がある。図-2 の蛇行直径は0.80 kmあり、宮崎平野では最大級である。

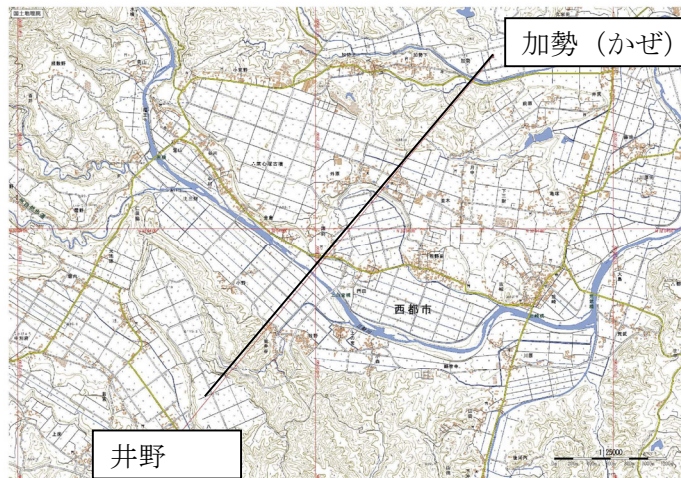


図 3 断面位置図

図-3 の断面位置図に注目して断面図を起こすと 図-4 のようになる。現在の三財川の河床から諏訪の集落との高低差は約10mである。三財小学校の標高が約55mであるので、この浸食崖の高さは20m以上である。

三財小学校へ登る坂は外原（とばる）の坂と呼ばれ、坂の途中には大きな湧水があった。

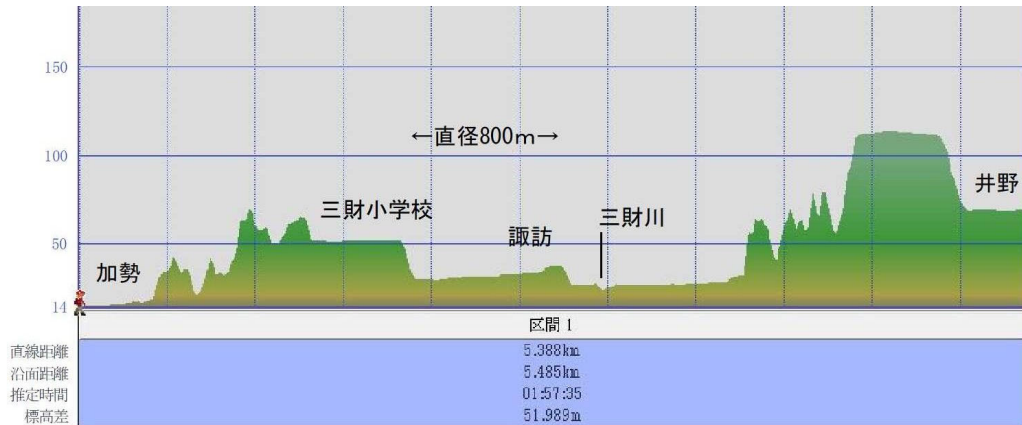


図 4 断面図

この 20m の標高差の地質は、下部に妻層 (Tsm) の泥岩、上部に深年 I 段丘堆積物 (F I) となっている。深年 II 段丘堆積物 (F II) は一部を残して浸食されてしまったのだろうか。南側の台地は、上の原 (うえのはる) と呼ばれ、標高 120m 規模の新田原段丘堆積物 (Ny) である。

3. 河川蛇行

三財川の河川蛇行は顕著である。この河川は、都於都 (とのこおり) 台地や仲間原 (ちゅうげんぼる) 台地を大きく迂回して流下する。下流域では河川改修によって取り残された廃川敷地が数多く存在する。鹿野田 (かのだ) には直径 0.70 km のいびつな形状の蛇行痕跡が見受けられる。四つ葉のクローバーのような形状です。

戦後の河川改修は蛇行した河川を直線化した改修が多く行われた。この理由はよくわからない。洪水防御のために直線化したと説明されることが多い。これは河道計画という工学部門である。戦後の急激な都市化が終息し、洪水防御から親水へと河川行政が変遷していった。河川蛇行の視点からの資産管理や資源管理を考えると、新しい観光資源となるかもしれない。

この蛇行が形成された地質年代は第四紀更新世であろう。東側に続く河川蛇行は折り重なるように形成され、亀塚まで痕跡が確認できる。上の原の北側は第三紀の本庄層の堆積岩で形成され開析が進んでいる。このような原 (はる) と開析が進んだ地形が宮崎平野の特徴である。

河道は直進し、直線から次第に曲線を描くようになる。曲線が次第に顕著化して三日月湖が形成される。これが河川蛇行地形の変遷過程である。これらの痕跡が宮崎平野には数多く発見できる。

4. おわりに

河川景観と地質、農業遺産などを地質年代からひもとき結びつけることによって見えてくる世界像がある。宮崎平野の生成過程には、数多くの謎がありそうである。